

日本カトリック司教団がメッセージ

兄弟姉妹の皆様

東日本大震災からの復興にむけて

3月11日の東日本大震災からはや3カ月が過ぎました。

今回の東日本大震災によって、2万人近い方々が亡くなられ、いまだ、多くの人々が行方不明のままです。私たちは祈ります。

いつくしみ深い神よ、家族や友人たちとの別れを語ることにできずに亡くなられた方々をあなたのみ手のなかに受け入れてください。また、遺された家族や友人たちにこの悲しみを乗り越えて生きていく希望をお与えください。

また、住宅、工場、田畑、港湾などでも大きな被害がでました。さらに、原発事故による被害も甚大です。多くの人が避難所、仮設住宅などでの不自由な生活を余儀なくされています。私たちは祈ります。救いの源である神よ、苦しみの淵からあなたに叫ぶ人々を顧み、その重荷を一日も早く取り除いてください。家族や地域の絆を回復し、希望のうちに共に歩むことができますように。

いまだ、原発事故収束の見通しもついていません。東日本大震災からの復興は長い道のりになるでしょう。6月13日から17日に開催された司教総会において、私たち司教団は「一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、すべての部分が共に喜ぶのです」(コリントの信徒への手紙一 12:26)と切実に語るパウロの言葉を実感し、復興支援により一層力を入れて取り組むことを決意しました。

これまでカトリック教会ではカリタスジャパンを中心に支援活動を行ってきましたが、被害の大きさ、復興の長期化に鑑み、日本の全教区が直接に、そして具体的に、復興にむけての支援にあたることを決定しました。司教団の意図を汲んでいただき、司祭・修道者をはじめ、兄弟姉妹の皆様にも継続的な協力を共にするよう呼びかけます。

最後になりましたが、国内外の皆様への祈りとあたたかい支援に心から感謝いたします。今後とも共に歩めるように祈ります。

2011年6月17日
定例司教総会最終日 日本カトリック司教団一同

5月29日(日)カトリック大名町教会において、下智英



知神父(長崎教区司祭)を講師に迎え、世界広報の日福岡教区研修会が開催された。あいにくの雨にもかかわらず福岡・熊本・佐賀の各小教区から広報担当者や関心のある方々が集い、「広報」の意味とそのあり方について、研修と分ち合いの時を持った。

下智神父は「広報の使命は世の福音化にある。広報は鏡であり、その団体の有様を映し出す。広報は対話へと開かれていく」「『広報』を考へることは、『小教区』を考へること、『小教区』を考へることは、『教会の再構築』を考へること、『教会の再構築』を考へることは、『広

2011年世界
広報の日

「共同体の『わ』と広がりを求めて」

福岡教区広報委員会研修会を開催



宮原良治司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行 人
カトリック福岡司教区
編集人 森山信三
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

7月の意向

- 【一般】エイズで苦しんでいる人
- 【宣教】宣教に派遣されている者の証し
- 【日本の教会】日本の殉教者のために

教皇様の意向のために祈りましょう

アヴェ・マリアの祈り

アヴェ・マリア、恵みに満ちた方、主はあなたとともにおられます。あなたは女のうちに祝福され、ご胎内の御子イエスも祝福されています。神の母聖マリア、わたしたち罪びとのために、今も、死を迎える時も、お祈りください。アーメン。

(2011年6月14日 定例司教総会にて承認)
口語訳「聖母マリアへの祈り」と文語訳「天使祝詞」は、今後公式には使用しない。



司祭研修会開催 韓国インチョンの教区司祭を招いて

ノルベルト シャ神父と通訳の Sr.ベルナデッタ

福岡教区で働く50人の司祭が集い、6月21日から23日ま

時の話題

安積道也

ドイツの教会音楽監督の現場を離れ、帰国して早4年、今は西南学院(フロンテスタント・バプテスト派)で音楽主事として大学聖歌隊の指導などをしてい

賛美の本質

生懸命バイトしてます」「あたしは、死んだら二次元の世界に生まれ変わりたい(IIマンガのキャラになりたい)」「メッセージ性のある歌は歌いたくありません。勘違いされますから。でも讚美歌は好

「何で教会の人ってあたしたちの歌を聞いて泣くんですか?」「なんか降りてきました」などと感想も様々。作品の意味を説明し礼拝の中で歌うとき、彼らは時に涙し声がかすれる。歌詞の持つ内容が音楽の力をもつて強烈に作用し、力強い賛美として魂が共鳴するかのようだ。音楽賛美を生業とした者ではあるが、まだ日本のカトリック教会の現実でその可能性が見えてこない。もがく中、教育の現場で神様が痛烈に問うてくる。「賛美とは何か。賛美の本質をもとめよ」と。

西新教会信徒

で唐津ロイヤルホテルにて研修会が開催された。講師はノルベルト・シャ神父(韓国インチョン教区司祭)であった。神父は「福音宣教」について語り始め「新しさ」とは何か、それは、宣教に対する熱意、方法、表現の3つだと語った。そして韓国における他宗教、例えば仏教と比較しながら、カトリックは死と死後についての確固たる教え、信仰があり死について確信を持てば持つほど宣教に対する熱意がわくはずだと述べた。

「イメージ宣教」や「たんぼぼ宣教」などユニークな言葉が飛び出し、宣教の方法論について参加者に多くの示唆を与えた。

聖座が広島教区に新司教を任命

教皇ベネディクト16世は、6月13日、カトリック広島教区の三末篤實司教の定年による退任願いを受理し、新しい司教に長崎教区司祭のトマス・アクイナス前田万葉師を任命することを発表した。

今、この国では多くの人々が故郷を失った。地震や津波で家屋が破壊され、帰るべき家を失った人々、また家はあ

(M)

九州で
シンウム

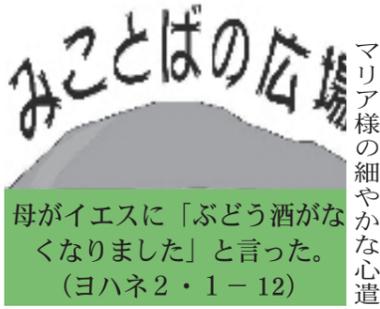
「信教の自由と政教分離」



5月21日(土)カトリック小倉教会において「信教の自由と政教分離」をテーマにしたシンポジウムが開催された。主催は、宗派を超えたところで活動する有志の集い「信教の自由と政教分離シンポジウム実行委員会」である。

発題者として溝部脩前高松教区司教、森上洋介牧師(日本イエス・キリスト教団小倉教会)、谷大二さいたま教区司教の3人が登壇し、それぞれ20分、30分の持ち時間で

「国是と信教の自由」をテーマに、豊臣秀吉のキリシタン追放令から天皇を頂点とした神国として国家をまとめようとした明治維新、太平洋戦争敗戦にいたるまでの歴史を取り上げて語った。



「ぶどう酒が足りなくなつたので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。(ヨハネ2・1-12)」

いのすばらしき、隣人への配慮を気付かされる、私の大好きなみことばです。私が初めてこの「カナの婚礼」に出会った時、母マリア様の息子イエ

みなさんと一緒に語り合い働いていきたいと思います、と投げかけた。

三番目の発題者、谷大二司教は司教団メッセージとして出された「信教の自由と政教分離」をもとに「靖国神社参拝問題」などに触れながら次のように述べた。

「私たちは子どもたちに正しい判断ができる資料を提供しておく必要がある。『政教分離』とは国家と特定の宗教団体が特別な関係にならないように規定されている。私たちの人権、人間としての尊厳は国家から与えられたものではなく、神さまから与えられたものであり、それを国家や団体、個人が権力によって奪い取るうとするならば奪ってはならない、はつきりと伝えなければならない。『信教の自由』というのは基本的な人権であつて、誰も侵してはならない。子どもたちが訓練の場に立たされなければならない。私たちは子どもたちが自分で判断できるように適切な材料を準備しておくなければならない

がなくなり、力強く、イエス様へ確信に満ちた信頼を持つて祈らなければならぬ」と痛感いたします。

何が今私達のこの社会に、一番欠けているのでしょうか。それは、日常生活の中での愛の実行、小さな思いやり、赦し合い、譲り合い、忍耐する事等、それは根本的な、人間本来のやさやかな愛の実行ではないでしょうか。これさえあれば良いぶどう酒で満たされることだと思いませんか。福岡教区の司教方、被災地でのボランティアに参加され、その体験を分かち合つて下さつたと聞きました。それは表面化されているニュー

い。子どもたちの将来を守るために必要なものの一つは『信教の自由と政教分離』9条戦争放棄、そして12条から書かれている『基本的人権』これは全て戦前戦中の反省から

16年目の大きな喜び

私が入信を決意したのは3歳、カトリックの幼稚園に入園して少したつたころだと記憶しています。おぼろげな記憶ですが母に確認しても「そうだ」と言うので間違いのないと思います。

私の家は父は仏教、母は神教(実家が神社)の家系なので「20歳になったときに意志が変わっていなければ自分はいきなさい」と言われてしまひ、その時信者になることは叶いませんでした。

そこで私は子どもでも解るような簡単な聖書(絵本や漫画など)を繰り返し読んでいました。ある時、父の机から、父が高校生の頃に学校で使っていた聖書がでてきたのです。読み始めましたが、難しく読み進めることはできませんでした。母はいつもバザーの時にカトリック幼稚園へ連れて行ってくれていました

から来ている。『20条』は信教の自由、私たちの信仰の自由だけでなく、再び戦争への道を歩まない、子どもを戦場に送らない、そのためにもある」と語った。

ら来ている。『20条』は信教の自由、私たちの信仰の自由だけでなく、再び戦争への道を歩まない、子どもを戦場に送らない、そのためにもある」と語った。

息

カトリック医療関連学生セミナー 参加者募集

メインテーマ
まんなかにいのち
～いのちへのまなざし～
サブテーマ:「未来の医療を作ろう!」
日程: 8月27日(土)～28日(日)
会場: 日本カトリック神学院 福岡キャンパス

神さまからの祝福を感謝

「ああ、私はきつと生まれる

は、福岡教区司祭山頭原太郎神父が講師を務めた。山頭神父は「親は子どもにとって最高の教育者である。自分の子が誰と何をしているのか、いつも見ていることが肝心である。子どもには良い部分がある。80パーセントを褒めて、20パーセントで本人の気持ちを意気揚々とさせることが成長の秘訣である。」と自らの体験から保護者のあるべき姿を語った。

大牟田市吉野にある宗教法人吉野天使幼稚園(理事長 宮原良治司教)は、4月1日に創立50周年を迎え、5月21日(土)に簡単なセレモニーと特別記念講演会を催した。

前からの導かれていたんだ」と思いました。このことから私は洗札名をベルナデッタにしようと思つた。

世界中の天気調べて家に居る

坂牧春妙
深堀正平

カトリック医療関連学生セミナー 参加者募集

メインテーマ
まんなかにいのち
～いのちへのまなざし～
サブテーマ:「未来の医療を作ろう!」
日程: 8月27日(土)～28日(日)
会場: 日本カトリック神学院 福岡キャンパス

神さまからの祝福を感謝

「ああ、私はきつと生まれる

は、福岡教区司祭山頭原太郎神父が講師を務めた。山頭神父は「親は子どもにとって最高の教育者である。自分の子が誰と何をしているのか、いつも見ていることが肝心である。子どもには良い部分がある。80パーセントを褒めて、20パーセントで本人の気持ちを意気揚々とさせることが成長の秘訣である。」と自らの体験から保護者のあるべき姿を語った。

大牟田市吉野にある宗教法人吉野天使幼稚園(理事長 宮原良治司教)は、4月1日に創立50周年を迎え、5月21日(土)に簡単なセレモニーと特別記念講演会を催した。

前からの導かれていたんだ」と思いました。このことから私は洗札名をベルナデッタにしようと思つた。

神の前で生と死を考える集い

③9月10日(土)16時～11日(日)15時 指導: 来住英俊神父(御受難会)

内容: 自死の問題、教会の秘跡(特に、病者の塗油)

全日程(宿泊)1万円。全日程(通い)6千円。
1日のみ参加(食事付)4千円。

カトリック福岡黙想の家

カトリック御受難修道会・宗像修道院 ネットで検索 福岡黙想の家 検索

811-4155 福岡県宗像市名残1056 Tel 0940-32-3222 Fax 0940-32-3385

ミサ用ワイン

ワイン デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ(赤)(白)

ご用命 お問い合わせは
有限会社 大楠酒店
ヨハネ 青木 彰

〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち

草苑 (SOU-EN)

カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。

木下株式会社

TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

被災地ボランティアに参加して III

釜石ボランティアに参加して

震災・津波から2ヶ月が過ぎた5月14日、19日岩手県釜石市にある釜石ベースでボランティアをしてきました。

前日まで西新教会メンバーと宮城県石巻ベースで活動していたので、おおよその被災地状況は把握していたつもりでしたが、予想以上の復興の遅れに愕然としました。

地理的距離と交通アクセスの不便さで、3日以上滞在可能なボランティアに限られるのが原因だそうです。

しかし、少ない中でもカリタスジャパンを中心に様々な団体や地元自治体が早期復興を目標とし懸命に注力する姿



臨床パストラルケア研修会

6月5日(日)大名町教会で、「困難における心のケア」をテーマに、NPO法人臨床パストラル教育研究センター・九州九州ブロック主催の講演会が開催されました。講師はヴァルデマル・キップス神父(ヘレデンブートル会)、福岡、北九州、鹿児島から50余人の参加があった。

人間の尊重の基礎は身体健康ではなく、心の健康である。身体が病気のときでも、心は健康な生き方が出来る。心を生かすのは聖なる霊(スピリット)である。同時に心を滅ぼそうとする悪霊も活躍する。困難のときに生き続けさせてくれるのは聖なる霊であり、失望させるのは悪霊である。従って、人が困難特に命に関わる疾病に出会ったとき、心とその育成を中心課題にすることを忘れてはな

望みのことを精一杯お手伝いしようと思えるようになり、また、普段の生活でも心がけたいと思った体験でした。

西新教会信徒 深堀由布子



当たり前前の日常が崩れ去っていた

「与えるものが何も無いときは、神にその「無そのもの」を差し出しましょう。できる限り、自分が空っぽでいられるように。」

そうすれば神がわたしたちを満たしてくださいませ。」

何か出来れば被災地にきました、実際には少しづつしか進まない作業に歯痒さを感じ、思うようにいったとしても自分で出来ることの小ささ、無力さを痛感する場面ばかりでした。しかしこの言葉に触れ、私も「自分」が何かするのではなく「神様」が

回日も普通に日常生活が営まれていました。でも、町の家々には地震被害の検査の貼り紙があり、中には赤字で危険の文字もありました。報道では伝えきれない被害があることを認識させられました。

南三陸町は被災した地域の建物は泥出しできる余地もない程、根こそぎ津波にさらわれており、やるべき作業自体も少なく、別の場所に行けば良かったと思えました。

ボランティアから帰り冷静になって考えると、それはただの自己満足だと気付きました。自分の気持ちを満たすだけではない、本当に被災者の心を考えてこそボランティアだと思えます。

今回現地に行き、一面瓦礫(がれき)と化した町を見たり、避難所で不自由な暮らしをしている被災者の方々を見たりしたことは大きな精神的ショックでした。僕が今まで生まれ育ってきた当たり前前の日常が崩れ去っている。これは本当に信じられないことでした。もしこのボランティアに行っていなければ、今までに起きた地震や災害と同様に、東日本大震災のことも他人事で終わっていたら、どうも思いません。今回聞き取ったことを、事あるごとに思い起こしながら今後の人生を送りたいと思えます。

西新教会信徒 村山 徹

「真実の自分」を開いていく時、私はあなたと共に神の国を創造していくのではないかと考えた。

尚、この講演会のチケット代金は被災地のボランティア活動資金に寄付された。

WYDに向けプレ徒歩巡礼27キロ 福岡区青年



描きながら歩を進め約6時間後、古賀教会に無事到着した。途中立ち寄った箱崎教会には、主任のミシェル神父と信徒の有志が、雨に濡れた身体を拭くためのタオルまで用意した心あたたまるもてなしが待ち受けていた。

終着の古賀教会では、サバティカルのためにも福岡を離れるという主任のジュロ神父を始め、オブレイト会の神父たちと、徒歩巡礼には参加しなかった青年達が巡礼団の到着を待っていた。

今回の巡礼は、実際に長距離を歩き、本番に向けた体力・装備面に関する課題を発見することを目標としていた。

しかし、一緒に歩く仲間と自分で出来る形で応援して下さる人々に支えられていることを改めて感じる体験になった。今回WYDへ向けた準備を通じてお互いの歩みに神様の導きと祝福を祈りながら新たな旅を始められたことに感謝する歩みであった。

東日本大震災を忘れない 11日の祈り



「一緒に祈っているという連帯感が心強い」「震災のことをいつまでも忘れないために是非続けて欲しい」「次回も予定もお知らせください」などとのメッセージも寄せられています。祈りの輪がどんどん広がっていくのが感じられました。

次回、7月11日(月)は聖パウロ会福岡修道院聖堂(サンパウロ宣教センター二階)にてミサと夕の祈りが捧げられます。

Br.阿部光一

「天国へ行ってしまったあの子は、私のいのちだった。幼いわが子を亡くした母が、人生の歩みとともに流す涙の色は、冷たく、暗く、やがて優しく、そして切ない想いを映す。生きるいのち、逝くいのちに、長年寄り添い続けた小児科医である著者がつづる、いのちのなみだ。」

ドン・ボスコ社 発行
税込価格 1260円

「真理は、愛に意味と価値を与える光です」。人類の真の発展を支える主要な推進力であり、教会の社会教説の軸となる原理である「真理に根ざした愛」を説く、ベネディクト16世初の社会回勅の邦訳がついに完成いたしました。

真理によつて照らされた愛の実践を促し、真理に満たされているからこそ、愛はその豊かな価値において理解が可能です。あることを明確に示しています。

カトリック中央協議会発行
税込定価 1050円

☆なみだ
細谷亮太 文
永井泰子 絵

「真理は、愛に意味と価値を与える光です」。人類の真の発展を支える主要な推進力であり、教会の社会教説の軸となる原理である「真理に根ざした愛」を説く、ベネディクト16世初の社会回勅の邦訳がついに完成いたしました。

真理によつて照らされた愛の実践を促し、真理に満たされているからこそ、愛はその豊かな価値において理解が可能です。あることを明確に示しています。

カトリック中央協議会発行
税込定価 1050円

☆なみだ
細谷亮太 文
永井泰子 絵

BOOK 読書専科

☆真理に根ざした愛
教皇ベネディクト16世回勅
マイケル・シーゲル 訳・編
教皇ベネディクト16世著

なんでもお問合わせください

株式会社 ジャパン・スマイルか

代理店 福岡市 丸の内ビルディング
〒810-0044 福岡市中央区南1丁目4番4号
TEL 092-781-8800
http://www.info-japan.com

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション

自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。

春日市上白水 5-11-102 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表:エリザベト熊谷

総合建築業

- 一般住宅(新築・改築工事)
- 鉄骨工事
- RC工事

建築の事なら何でもお気軽にご相談ください

有限会社 森山工務店

ヨゼフ 森山 新太郎

福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎(092) 811-7265

木との出会い 人との出会い 神との出会い

セント・ポール FUKUOKA

〒812-0001 福岡市早良区大谷2-7-7 大名町カトリック教会1F
平日 AM 10時～PM 5時40分
日・祝日 AM 11時～PM 4時 (休館日不定)

TEL 092-741-6888 FAX 092-741-6861
URL http://www.pax.info.jp

